

## 標準単価(東京地区)から積算単価への補正方法

### 補正式

標準単価は東京地区（東京 17 区）における基準年月（平成 27 年 4 月）の施工単位当たりの単価であることから、地域および時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。  
標準単価（P）から積算単価（P'）への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left[ \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right] \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} + \left[ \frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right] \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \right. \\ \left. + \left\{ \left[ \frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right] \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\} \right.$$

P'	: 積算単価（積算地区、積算年月）	
P	: 標準単価（東京地区、基準年月）	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
Kr	: 標準単価における全機械（K1～K3,他）の構成比合計	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
K1r～K3r	: 標準単価における代表機械規格 K1～3 の構成比	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
K1t～K3t	: 代表機械規格 K1～3 の単価（東京地区、基準年月）	→ 損料は平成 27 年度建設機械等損料表（一般社団法人 日本建設機械施工協会） 賃料は物価資料（平成 27 年 4 月）
K1t'～K3t'	: 代表機械規格 K1～3 の単価（積算地区、積算年月）	→ 損料は平成 28 年度建設機械等損料表（一般社団法人 日本建設機械施工協会） 賃料は物価資料等
Rr	: 標準単価における全労務（R1～R4,他）の構成比合計	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
R1r～R4r	: 標準単価における代表労務規格 R1～4 の構成比	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
R1t～R4t	: 代表労務規格 R1～4 の単価（東京地区、基準年月）	→ 三重県の公共事業情報 県土整備部積算基準の制定について 公共工事労務単価 関東 13 東京都
R1t'～R4t'	: 代表労務規格 R1～4 の単価（積算地区、積算年月）	→ 設計単価表 第 2 章 労務単価
Zr	: 標準単価における全材料（Z1～Z4,他）の構成比合計	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
Z1r～Z4r	: 標準単価における代表材料規格 Z1～4 の構成比	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
Z1t～Z4t	: 代表材料規格 Z1～4 の単価（東京地区、基準年月）	→ 「代表材料の基準単価（東京地区）作成方法について」（平成 28 年 7 月制定分） 「施工パッケージ型積算方式 代表機労材規格一覧」（平成 28 年 7 月制定分） 「施工パッケージ型積算方式 基準材料・機械賃料単価（東京地区）」（平成 28 年 7 月制定分）
Z1t'～Z4t'	: 代表材料規格 Z1～4 の単価（積算地区、積算年月）	→ 設計単価表 第 1 章 3. 材料単価等の決定方法（土木工事編）に基づき決定
Sr	: 標準単価における市場単価 S の構成比	→ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
St	: 市場単価 S の所与条件における単価（東京地区、基準年月）	→ 「施工パッケージ型積算方式 基準材料・機械賃料単価（東京地区）」（平成 28 年 7 月制定分）
St'	: 市場単価 S の所与条件における単価（積算地区、積算年月）	→ 設計単価表 市場単価編

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正（下記①）に加え、下記②～⑤の補正が必要な場合があります。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 条件区分に定めのない規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金補正等を行う場合
- ⑤ 支給品や無償貸付機械等がある場合

【計算例①】

①地域および時期の違いによる補正  
 (施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45mm以上～55mm未満、1.4m以上、密粒度As20、タックコートPK-4
- ・標準単価：1,662円（有効数字4桁、5桁目を降切り上げ）

	規 格	構成比 (%)	東京(H27.4)(円)	三重(H28.7)(円)	
K		3.34			
	K 1	アスファルトフィニッシュ[ホイール型]舗装幅2.4～6.0m[排出ガス対策型(第2次基準値)]	1.81	40,100	41,100
	K 2	タイヤローラ[普通型・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8～20t	0.50	11,000	11,400
	K 3	ロードローラ[マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10～12t	0.50	11,900	12,400
R		8.33			
	R 1	普通作業員	3.01	19,200	18,000
	R 2	特殊作業員	1.72	22,000	20,800
	R 3	運転手(特殊)	1.67	21,600	21,000
R 4	土木一般世話役	0.60	23,300	21,400	
Z		88.33			
	Z 1	アスファルト混合物密粒度AS混合物(20)	85.57	11,300	11,300
	Z 2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91.0	92.0
	Z 3	軽油1.2号 バトロール給油	0.35	107.0	87.0

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

P'(三重 H28.7) = 1,662

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.5}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.5}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right\} \times \frac{3.34}{1.81 + 0.5 + 0.5} \\
 & + \left[ \frac{3.01}{100} \times \frac{18,000}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{20,800}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{21,000}{21,600} + \frac{0.6}{100} \times \frac{21,400}{23,300} \right] \times \frac{8.33}{3.01 + 1.72 + 1.67 + 0.6} \\
 & + \left[ \frac{85.57}{100} \times \frac{11,300}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{92.0}{91.0} + \frac{0.35}{100} \times \frac{87}{107.0} \right] \times \frac{88.33}{85.57 + 2.35 + 0.35} \\
 & + \frac{100 - 3.34 - 8.33 - 88.33}{100} \} = 1,655 \quad (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、積算単価が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。

【計算例②】

②条件区分に定めのない規格により積算する場合

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45mm以上～55mm未満、1.4m以上、**再生密粒度As20**、タックコートPK-4
- ・標準単価：1,662円（有効数字4桁、5桁目以降切り上げ）

	規 格	構成比 (%)	東京 (H27. 4) (円)	三重 (H28. 7) (円)
K		3.34		
K 1	アスファルトフィニッシュ[ホイール型]舗装幅2.4～6.0m[排出ガス対策型(第2次基準値)]	1.81	40,100	41,100
K 2	タイヤローラ[普通型・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8～20t	0.50	11,000	11,400
K 3	ロードローラ[マガラム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10～12t	0.50	11,900	12,400
R		8.33		
R 1	普通作業員	3.01	19,200	18,000
R 2	特殊作業員	1.72	22,000	20,800
R 3	運転手(特殊)	1.67	21,600	21,000
R 4	土木一般世話役	0.60	23,300	21,400
Z		88.33		
Z 1	アスファルト混合物密粒度AS混合物(20)	85.57	11,300	<b>10,600</b> (再生密粒度As20)
Z 2	アスファルト乳剤PK-4 タックコート用	2.35	91.0	92.0
Z 3	軽油1.2号パトロール給油	0.35	107.0	87.0

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{三重 H28. 7}) = 1,662$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left[ \frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.5}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.5}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right] \times \frac{3.34}{1.81 + 0.5 + 0.5} \right. \\
 & + \left[ \frac{3.01}{100} \times \frac{18,000}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{20,800}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{21,000}{21,600} + \frac{0.6}{100} \times \frac{21,400}{23,300} \right] \times \frac{8.33}{3.01 + 1.72 + 1.67 + 0.6} \\
 & + \left[ \frac{85.57}{100} \times \frac{10,600}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{92.0}{91.0} + \frac{0.35}{100} \times \frac{87.0}{107.0} \right] \times \frac{88.33}{85.57 + 2.35 + 0.35} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.34 - 8.33 - 88.33}{100} \right\} = 1,567 \quad (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、積算単価が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。

【計算例③】

③条件区分に実数入力を行い積算する場合

- ・施工パッケージ名称：安定処理
- ・条件区分：バックホウ、構造物基礎、1mを超え2m以下、7.00t/100m<sup>2</sup>
- ・標準単価：2,104円（有効数字4桁、5桁目以降切り上げ）

	規 格	構成比 (%)	東京 (H27. 4) (円)	三重 (H28. 7) (円)	
K		9.14			
	K 1	バックホウ(クロー型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.8m3(平積0.6m3) 2.9t吊 (賃料)	7.89	9,840	10,600
	K 2	振動ロー(舗装用) [ハットカイト式]質量0.8t~1.1t (賃料)	1.25	1,560	1,590
R		55.31			
	R 1	土木一般世話役	15.00	23,300	21,400
	R 2	特殊作業員	14.12	22,000	20,800
	R 3	運転手(特殊)	13.87	21,600	21,000
	R 4	普通作業員	12.32	19,200	18,000
Z		35.55			
	Z 1	固化材(5.25t/100m <sup>2</sup> )	30.69	64,575 (12,300×5.25t)	<u>82,600</u> <del>(11,800×7.00t)</del>
	Z 2	軽油1.2号	4.86	107.0	87.0

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{三重 H28. 7}) = 2,104$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left[ \frac{7.89}{100} \times \frac{10,600}{9,840} + \frac{1.25}{100} \times \frac{1,590}{1,560} \right] \times \frac{9.14}{7.89 + 1.25} \right. \\
 & + \left[ \frac{15}{100} \times \frac{21,400}{23,300} + \frac{14.12}{100} \times \frac{20,800}{22,000} + \frac{13.87}{100} \times \frac{21,000}{21,600} + \frac{12.32}{100} \times \frac{18,000}{19,200} \right] \times \frac{55.31}{15 + 14.12 + 13.87 + 12.32} \\
 & + \left[ \frac{30.69}{100} \times \frac{82,600}{64,575} + \frac{4.86}{100} \times \frac{87.0}{107.0} \right] \times \frac{35.55}{30.69 + 4.86} \\
 & \left. + \frac{100 - 9.14 - 55.31 - 35.55}{100} \right\} = 2,212 \quad (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、積算単価が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。

【計算例④】

④時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合  
(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45mm以上～55mm未満、1.4m以上、密粒度As20、タックコートPK-4
- ・標準単価：1,662円（有効数字4桁、5桁目以降切り上げ）
- ・三重県における**労務費20%割増**の積算単価を算出

	規 格	構成比 (%)	東京 (H27. 4) (円)	三重 (H28. 7) (円)
K		3.34		
K 1	アスファルトフィニッシャ[ホイール型]舗装幅2.4～6.0m[排出ガス対策型(第2次基準値)]	1.81	40,100	41,100
K 2	タイヤロー[普通型・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8～20t	0.50	11,000	11,400
K 3	ロードロー[マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10～12t	0.50	11,900	12,400
R		8.33		
R 1	普通作業員	3.01	19,200	<u>21,600</u> <small>(18,000×1.2)</small>
R 2	特殊作業員	1.72	22,000	<u>24,960</u> <small>(20,800×1.2)</small>
R 3	運転手(特殊)	1.67	21,600	<u>25,200</u> <small>(21,000×1.2)</small>
R 4	土木一般世話役	0.60	23,300	<u>25,680</u> <small>(21,400×1.2)</small>
Z		88.33		
Z 1	アスファルト混合物密粒度AS混合物(20)	85.57	11,300	11,300
Z 2	アスファルト乳剤PK-4 タックコート用	2.35	91.0	92.0
Z 3	軽油1.2号バトロール給油	0.35	107.0	87.0

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{三重 H28. 7}) = 1,662$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.5}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.5}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right\} \times \frac{3.34}{1.81 + 0.5 + 0.5} \\
 & + \left\{ \frac{3.01}{100} \times \frac{21,600}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{24,960}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{25,200}{21,600} + \frac{0.6}{100} \times \frac{25,680}{23,300} \right\} \times \frac{8.33}{3.01 + 1.72 + 1.67 + 0.6} \\
 & + \left\{ \frac{85.57}{100} \times \frac{11,300}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{92.0}{91.0} + \frac{0.35}{100} \times \frac{87}{107.0} \right\} \times \frac{88.33}{85.57 + 2.35 + 0.35} \\
 & + \frac{100 - 3.34 - 8.33 - 88.33}{100} \Big\} = 1,681 \quad (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、積算単価が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。

【計算例⑤】

⑤支給品や無償貸付機械等がある場合  
 (施工パッケージ積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：45mm以上～55mm未満、1.4m以上、**再生密粒度As20**、タックコートPK-4
- ・標準単価：1,662円（有効数字4桁、5桁目以降切り上げ）

**アスファルト混合物が支給された場合**

	規 格	構成比 (%)	東京 (H27. 4) (円)	三重 (H28. 7) (円)
K		3.34		
	K 1 アスファルトフィニッシュ[ホイル型]舗装幅2.4～6.0m[排出ガス対策型(第2次基準値)]	1.81	40,100	41,100
	K 2 タイヤローラ[普通型・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量8～20t	0.50	11,000	11,400
K 3 ローター[マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)]質量10～12t	0.50	11,900	12,400	
R		8.33		
	R 1 普通作業員	3.01	19,200	18,000
	R 2 特殊作業員	1.72	22,000	20,800
	R 3 運転手(特殊)	1.67	21,600	21,000
R 4 土木一般世話役	0.60	23,300	21,400	
Z		88.33		
	Z 1 アスファルト混合物密粒度AS混合物(20)	85.57	11,300	<b>10,600</b> <b>(再生密粒度As20)</b> <b>(支給品)</b>
	Z 2 アスファルト乳剤PK-4	2.35	91.0	92.0
	Z 3 軽油1.2号バトロール給油	0.35	107.0	87.0

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{三重 H28. 7}) = 1,662$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left[ \frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.5}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.5}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right] \times \frac{3.34}{1.81 + 0.5 + 0.5} \right. \\
 & + \left[ \frac{3.01}{100} \times \frac{18,000}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{20,800}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{21,000}{21,600} + \frac{0.6}{100} \times \frac{21,400}{23,300} \right] \times \frac{8.33}{3.01 + 1.72 + 1.67 + 0.6} \\
 & + \left[ \frac{85.57}{100} \times \frac{10,600}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{92.0}{91.0} + \frac{0.35}{100} \times \frac{87.0}{107.0} \right] \times \frac{88.33}{85.57 + 2.35 + 0.35} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.34 - 8.33 - 88.33}{100} \right\} = 1,567 \quad (\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

$$\text{支給品費} = 1,662 \times \frac{85.57}{100} \times \frac{10,600}{11,300} = 1,334 \quad (\text{円/m}^2)$$

$$\text{積算単価} = 1,567 - 1,334 = \mathbf{233} \quad (\text{円/m}^2)$$

※積算単価は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、積算単価が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。

※支給品費は、整数止め（小数以下切り捨て）。ただし、支給品費が1円未満の場合は、有効数字1桁、2桁以降切り捨て。